

平成 27 年度 第 2 回筑前町総合教育会議 議事録

開催年月日	平成 27 年 9 月 24 日 (木)			
開催場所	筑前町役場本庁舎 2 階 庁議室			
委員の欠 出 (出席 6 名) (欠席 0 名)	職名	氏名	出欠	備考
	町長	田頭 喜久己	出	
	教育委員長	柿原 紀也	出	
	教育委員	高 清史	出	
	〃	砥上 淳一	出	
	〃	藤田 利津子	出	
	教育長	大雄 信英	出	
会議録署名人	柿原紀也委員長・高 清史委員			
その他に 議事 参加 した 職 氏 名	職名	氏名	備考	
	教育課長	森部 純一		
	生涯学習課長	岩下 定徳		
	教育課学校教育係長	村山 弥生		
	総務課長	入江 哲生		
	総務課行政政策係長	斉田 藤孝		
	総務課行政政策係	藤井 有香		
<p>・ 会議に付した事件                      別紙のとおり</p> <p>・ 会議の経過                              別紙のとおり</p> <p>・ 傍聴人 0 名</p>				

	( 開会 14 : 00 )
斉田係長	ただ今から第2回総合教育会議を開催いたします。まず初めに町長からごあいさつをお願いいたします。
田頭町長	お忙しい中にお集まりいただきありがとうございます。本日は第2回の総合教育会議でございます。会議を開くからには実のあるものにしていきたいという想いでございます。ぜひ活発な議論をお願いしましてごあいさついたします。
斉田係長	ありがとうございます。続いて議事録署名人の選任ですけれども、前回田頭町長と大雄教育長にお願いしましたので、今回は教育委員の方から柿原紀也委員長と高清史委員にお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。
柿原委員長、高委員	はい。
斉田係長	ありがとうございます。ではよろしく申し上げます。早速協議・調整事項に入っていきたいと思っております。事務局より説明いたします。
藤井	それでは協議事項に入ります前に、まず前回会議の確認をしたいと思っております。前回総合教育会議の第1回目を開催しまして、設置要綱や教育大綱案を提示したところですので。その中で委員のみなさんから貴重な意見をいただきまして、協議をしたところですので。総合教育会議というものが、町長と教育委員のみなさんが同じテーブルで意見交換、議論をするということに意義がありますので、前回の会議では、この意見交換を経て、約1年をかけて今年度末までに教育大綱を策定していこうということで決定をしたところですので。教育大綱を策定するにあたって、策定の趣旨や位置づけなどを確認、意思統一した上で協議を進めたいと思っておりますので、本日は策定方針案について提案をさせていただきたいと思っております。また前回も話が出ていましたが、総合教育会議は町長が主催して行う会議となっております。設置要綱にもそのように規定しておりますので、この協議・調整事項については町長に議長となっていていただいで進行をお願いしたいと思っております。
田頭町長	はい、それでは私の方で進行を務めさせていただきます。よろしく申し上げます。まず協議事項の教育大綱策定方針案に入ります前に、前回の確認事項を振り返りながら確認していきたいと思っております。
藤井	まず7月21日に総合教育会議の設置・運営について協議をいたしました。法律が4月1日に改正されたことに伴い、自治体に総合教育会議を設けることとされましたので、筑前町においても総合教育会議設置要綱を制定、施行したところですので。この中に掲げている協議事項の中で、教育大綱を各自治体が策定するとなっておりますので、前回事務局の案として提示させていただいたところですので。それに関して委員のみなさんからご意見をいただきまして、もっと町長の色が反映されたものがないのではないか、総合計画の中でも食育等をうたっているのです。そういったところも全面に出していった方がいいのではというような意見を踏まえて、1年間かけて年度末までに教育大綱を策

	<p>定していこうではないかということで決定しました。前回提案させていただいた教育大綱の案を一旦頭からはずしていただいて、まずは本日、教育大綱の策定方針案を確認、意思統一させていただければと思っていますところす。</p>
田頭町長	<p>前回、教育大綱の素案が事務局から示されたわけですが、委員の中からももう少し思いが表現できるものの方がいいのではないかということでした。そういったことで資料等も添付してありますので、事務局から説明をお願いします。</p>
藤井	<p>2ページをお開きください。筑前町教育大綱策定方針案ということで、まず趣旨を確認したいと思います。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づきまして、筑前町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるということです。教育の課題が地域によって様々であることを踏まえ、地域の実情に応じて大綱を策定するという趣旨があります。大綱の期間ですが、文部科学省も4～5年を想定しております。国の教育振興基本計画の期間も5年間ですので、実効性のある計画期間として5年間の基本としてはどうかということで提案させていただきます。次に大綱の位置づけです。この大綱は、筑前町の教育行政を推進するための基本指針となるものです。総合的な施策（教育、学術、文化）の目標、根本となる方針であり、詳細な施策を策定するものではないということです。そちらに図示しておりますが、町の最上位計画というのが筑前町総合計画、それに即した形で筑前町教育大綱を策定するというので、それからもっと詳細な部分については教育委員会が策定してある筑前町教育施策要綱がありますので、もちろんこれは総合計画に即した形で策定してあるんですが、位置づけとしては総合計画と教育施策要綱の中間に位置するものとイメージしていただければと思います。基本指針ということで策定していきたいと思います。ただこれに関しては国の教育振興基本計画や県の教育振興基本計画の基本的な部分を参酌して策定するとなっております。次にスケジュールですが、案を作成しております。まず第1回7月21日に協議をしまして、本日第2回で策定方針案、この後に教育に関する課題を共有していこうと思っています。この後第3回から第5回までを計画しておりますが、これは年度末までに策定することを想定したスケジュールとなっております。この後続けて説明させていただきますが現時点での町長が考えた教育大綱案も本日資料として添付しておりますので、このスケジュールよりも早まる可能性もあるのかなということです。</p> <p>続けて添付しておりますA4サイズの資料が4枚ほどあるかと思います。まず一番上にあります筑前町教育支援大綱というのが町長が作成された案です。次の2枚目が砥上委員が考えられた案です。その他にも、豊後大野市や名古屋市教育大綱を添付しています。筑前町としては最終的にはこういった形で策定してはどうかと思い、似たようなところの教育大綱を資料として添付しています。前回の話にも出ていましたが、大野城市なんかは教育大綱を教育振興計画と合わせた形で策定されておりますのでボリュームが多くな</p>

	<p>っております。筑前町では教育振興計画は策定しておりませんので、また町長の思いを反映した形でA4サイズ1枚くらいで作成してはどうかというところで資料を添付しております。</p>
田頭町長	<p>今回の大綱が教育委員会だけでなく町長の思いを反映させることが大事だということで、砥上委員からの提案をうけまして私なりにたたき台を作成したところです。このようなスタイルはどうかと思ったところです。理由として、まず教育大綱が町民に分かりやすいものでなければならない。標語に近いものの方が多くの人に分かりやすいし、今までにないような何か運動的な意味合いも持ちうるのではないかとこのところでございます。様々に意見をうかがいながら進めたいと思っておりますけれども、これを私が作る前に砥上委員の方から提案を受けましたので、砥上委員の方からこれを作られた思いなりを紹介していただければと思います。</p>
砥上委員	<p>全くのたたき台ですけれども、町長の町の創生、教育にかける情熱というのは本当に感動しております。例えば大野城市のように要綱をそのまま大綱に多少修正した形で出すのもいいと思いますが、そういう総花的なものになるとどうしても論点がぼやけてしまう。町長としては、こういう教育をしたんだよというようなことを出した方が町民にも分かりやすいし、先生たちも頭の中に入っておれば教育しやすいと思うんですね。9月3日に福岡県総合教育会議が行われましたけれども、学力・体力の向上、家庭・学校・地域の連携、社会に羽ばたく力ということで3点にしばって協議がっております。その中で小川知事は、町長もよく言っておりますが英語力をつけて世界的な羽ばたくような人間になってほしいということを書いてあります。新グローバルリーアクトローカリティ、つまり国際的な視野を持っているけれども地域で活躍する人材を育成しなさいということを書いた席で言っております。だからやっぱり今の田頭町長の思いを受けて、これは全く私のたたき台だけですが、町長の思いを全面的に出してもらった形で1枚ものの方がいいのではと思いました。</p>
田頭町長	<p>ありがとうございます。次は資料添付してありますが、よく似たスタイルで豊後大野市と名古屋市。どこでも教育振興計画というのは持っているだろうし、総合的な政策をしなければ当然のことなんですけれども。マスタープランも同じで総花的です。そうせざるを得ない。住民の人にとっては何もかもが書いてあるから何もかもやるんだらうらうらなど。その中で特徴的に本町は食と平和というのをやるぞと出せばそこに重きを置いて予算もつけて政策が展開される。教育についても大綱が出ればこれに伴った予算も意識してまいります。長の思いを反映させるというのが今回の教育会議の趣旨のひとつでしょうから、私も意見を出さなくてはいけないということで、たたき台ですが、普段こんなことを思いながら教育というのは今まで意見が出せなかったけれども今回は出すべきだと方向転換されましたので出したところです。ただ町長の意向を反映すると言いながらも、当然みなさんの意見もいただきたいのでよろしく願いいたします。</p>

	<p>それと後期基本計画の資料もつけてあります。これは後期基本計画のシンボルテーマということで、これを出すことで筑前町の個性も出てくる。やっぱりうちの町はみなみの里と記念館に象徴されるように、食と平和をまちづくりの中に位置づけてもいいんだよという思いがあったということでそれを言葉にした。その次大事なのは何かというと子どもだと。子育てに力を入れていこうよと。また高齢社会もあるけれども、うちの町は他の町や大都会などと比較して農村文化がありますので「おかげさま」という気持ちが色濃い。おかげさまという言葉を出せば、普段使っている言葉がこれだけ意義があるんだと再認識できるのではなかろうかという思いがあつてのシンボルテーマのタイトルでもあるわけです。これは総合的だから、この中で特に子どもにしぼりこんでいけば、子どもを主語にして食と平和を考える、おかげさまを考えるということにもなるのかなという思いを持ったところでもございます。要するに、子どもたちをどう育てていくかというのはだいぶ議論はありますが、町民の人もやっぱり子どもたちを育てたいんですね。わが子だと考えればしっかり勉強させたいと、田舎だから自然環境にも恵まれて心豊かになってもらいたいというのが本当の思いだろうと、そういうものをお互いにやっていこうというふうに方向性を決めれば、同じ例えば学校の校舎を整備するにも思いが入ってくるのではと。具体的な施策は同じものも出てくるとも思いますけれども、この学校関係がありますけれども、これがあるからやっているんだとか、そういう思いが入ってきて私も将来の糧になるんじゃないかなと。そういう思いがありましたんで、みなさんから意見をいただきたいと思っています。</p>
柿原委員長	<p>筑前町の教育大綱は、子どもを中心に考えた、子どもの育成というものを考えたものという認識でいいのでしょうか。教育委員会が管轄しているのは子どもの前に大人の健康増進というものもあるわけで、このあたりは考えないと。あくまで子どもを中心に考えましょうと言うことでいいのでしょうか。</p>
田頭町長	<p>あくまで教育支援です。大人が子どもを支援するというスタンス。そのためにはうちの町は食や平和というすごい財産があるからポテンシャルがあるからそれを通じて子どもを支援していこうというふうな考えでいきたいと。大人は子どもがいるからこそ一緒に家庭学習を応援しようやということだろうと考えている。</p>
柿原委員長	<p>生涯学習の部分はそこまで入ってないという考え方でいいのでしょうか。</p>
田頭町長	<p>生涯学習になれば幅が広がるんですね。</p>
柿原委員長	<p>教育委員会が抱えている管轄のそこまでは考えていない？あくまでも子どもを中心に考えて大綱を出していくのか。</p>
大雄教育長	<p>教育振興計画の推進というものを掲げられているから。ここで就学前の教育とか生涯学習なども含まれると。</p>
田頭町長	<p>大綱が全てじゃあるんです。ただ分かりやすくするために、これがあるために子どもたちを支援しているんですよと。</p>

柿原委員長	<p>明確にさせていただいた方がいいのかなと。ひっかかるのが生涯学習。もうそれは考えなくていいよということであれば子どもの教育支援ということでもいいのですかね。</p>
田頭町長	<p>教育支援にしていきましょう。その方が分かりやすい。生涯学習については決して否定しないよと。教育振興計画でやっていくのだから。しかしこの部分は極端に言えばはずしてもいいんです。ただ様々なところに影響が出てくる。いくら整理しても完ぺきなものはできないわけですから。</p>
高委員	<p>名古屋市の大綱と豊後大野市の大綱は違うと思うんですね。名古屋市の大綱は子どもの教育に視点を置いてあって、豊後大野市は生涯学習の部分まで言及してある、全町民を対象としてある。この違いははっきり理解しておかないといけないと思うし。私も町長の案を見させていただき、よく考えてあると思うんですが、私は子どもだけじゃない方がいいのかなと。例えば町長の案に関して言うならば、これは大人もしっかり関わっていかないといけない、その過程で大人がやっぱり筑前町のことを新たに知るといふ部分もあるといふところもあると思うんですね。そういうところも含めてにした方がいいのかなと思ったんですけども。</p>
田頭町長	<p>筑前町大綱ではなく、教育支援大綱と名がついているんですね。教育というのはイメージが生涯学習大綱ではない、教育大綱といふことの意味合い、そういった意味からすれば、子どもの教育なのかなと。大人の教育といふのは大事なんですけど、国が想定しているのも子どもだろうと思っています。要するにまちづくり全般については今まで町長がしっかりやってきたわけです。しかし教育分野については今までは権限がなかった。その権限を法律改正によって認めたわけですね。だから教育分野については食と平和といふのはまちづくり全般でいつも言っている。だから大人にはわりと浸透しているのかなと思わないでもない。浸透していないけれども浸透すべきことかなと。大人にしか言っていない。だから子どもたちにも食と平和といふひとつのまちづくりも勉強してもらいたい。そういう意味では教育支援になるんじゃないかなと。</p>
大雄教育長	<p>「ちくぜんっ子は地域で活躍するもよし、世界に羽ばたくもよし。そして教育は未来への架け橋である。」という言葉は町長が常日頃言っているし、こういったものをぜひ出していただきたい。これは町長の子どもたちに対する思いであるし、教育に対する思いであるし。これは地域で活躍する、世界に羽ばたく、これが今から我々が育成していこうという教育のねらいにも合致するんですね。こういった分かりやすい言葉で示されることは非常にいいことであると思います。</p>
田頭町長	<p>私もこの言葉は語句の並びとして適当かどうかという疑問もありましたけれども、成人式で私の言葉として話したら、ある成人から「そうだよね、町長それは応援するよ」と言われたんですね。でもやっぱり地方創生ですべて子どもを田舎へ帰せと言っていますけど無理だと思っています。世界に羽ばたく人も出ないといけないし、それと同様に地域で活躍する人もいないとい</p>

	<p>けない。現実的に今は都会に出ている人が多い。それをストップさせることも今ひとつの課題なんですけれども、だからといって田舎が全てですよということでもない。選択肢を大きく広げていく政策を感じ取っていただければと思っています。</p> <p>これ以外に考えていると総花的になってしまう。学校建設だってしないといけない、それは全部しないといけないと思っていますが、その中でも特にと選びだすのが大綱かなと。最低限しなくちゃいけないことはやっぱり大綱の中に入っているから、それをやりながらさらに体制を作っていくというのが子どもたちにとって町はこんなふうに応援しているんだよと。子どもたちにしてみれば、町と教育委員会も同じだと思う。あとは大人が何を応援してくれるかということだろうと思う。今は気付かなくても結果論として、筑前町はしっかり応援してくれたんだなと感じてもらえればいいのかなど。具体的な例で悪いですけど、今はやめていますが国際交流をしていたんですね。あの影響で間違いなく英語分野に進んで大学に行って将来も英語を使う仕事に就くと。施策が役に立っているんだなと。ホームステイがきっかけになっているんだなと。やっぱり英語に関する関心は深まっているし、町が応援したがゆえに、旧三輪町では国際交流をしっかりとやっていた。そんなことがその時はいろんな理由でやめていったけれども、その時学んだ人たちは何らかの影響を受けて、将来が少しでも大きくなっていけばそれでよしとしなければならぬのかなと。</p>
柿原委員長	<p>昔、町民がレクリエーションを通して隣近所との連携や付き合いが深く関わっていた時代があったんですね。夏祭りとか、それをひとつのきっかけとして連携が出てきたりつながっていったり、そういうのがこれだけ殺伐としたこの時代に、必要じゃないかなという思いがある。豊後大野市の「誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を充実する」とありますが、これをどこで補っていくのか、どう考えていくのか、この部分をもっと大切にしたいなと思う。</p>
田頭町長	<p>私も5番の「おかげさま」。難しく言うよりも子どもが大人から学ぶこともおかげさまで、お互いが助け合うこともおかげさまで。この文化が筑前町では根付いていると思う。そういったことで、ここで大人とのふれあいやコミュニティ、学校が頑張っているコミュニティスクールの輪が広がっていけば…だからコミュニティスクールしっかり応援していくよという意思表示。ちくぜんっ子は何が違うかと言えば温かさを持っている、農村文化ですから。おかげさまという言葉がまだまだ生きていくわけですね。</p>
柿原委員長	<p>学力というものも大事ですけど、もっとバランスよく育てたいなと、特に心の部分ですね。人との交わりや他人への思いやりというものを大切にしたいなと。というのもどうしても学力が落ちてくる子もいる。そういう子たちにどういったサポートしていくか、支援していくか、心のふれあいが大事になっていくと思う。聞いていたら学力の話ばかりになっているような気がするのです。</p>

田頭町長	<p>学力ばかりというわけではないですが、うちの町の課題は何かということをおもひで考える必要がある。うちの町の子どもたちは人柄がいいと思っている。これはうちの特徴だと。じゃああと学力があったらすごいじゃないかと。学力は昔も今も将来も学生の本分でしょうし、勉強しながら人間が出来ていくでしょうし、ということを書いてはいますがけれども。ただそれだけじゃなくて例えば平和。記念館もあるので、平和についても学びやすい環境にあると思うんです。おかげさまという言葉も根付いているので、勉強だけじゃなく心豊かな人に育ててほしい。そしてうちが非常に恵まれているのは国立青少年自然の家を持っていることですね。地の利があります。そんなふうに分人たただけじゃなくて地域の資源を生かしながらやることが大事なのかなと思います。</p>
柿原委員長	<p>知恵ですね。国語算数理科社会ではなくて知恵を学ぶことが大事かなと。</p>
田頭町長	<p>大事ですね。基本的に私が思うのは、人類は大きな課題を持っていると。防災対策にしろ、認知症の問題にしろ、様々な分野を解決するのは知恵の力があるんですね。緊張した国際関係をどう解決していくのか、あるいは空き家対策をどう考えていくのかというのは、人柄もさることながら知がある。そういった分野に生きがいを感じていく子どもたちがたくさんいるんです。それが志というものではないかと思ひます。社会の人の役に立ちたい。その志をより実現させるためには知力基本であろうと思ひます。文と武というのはいつの時代でも片方だけじゃいけないと。それと学力体力それにプラス一芸できたらいいなと。例えば音楽や体操とか、何か一芸が出来たら社会に出た時に幅が広がるよなと思ひて挙げさせてもらっている。これだけではなくて、私が思ひつたのはこういうところであって、これをたたき台に意見をいただければと。</p> <p>私も食と平和というのは思ひ付きではなかつたんです。町長になった時に、しっかり自問自答してそして住民の意向も考えて、なぜ記念館とみなみの里を作ろうとしているのかと考へた。そう考へた場合に根幹にこういうものを大事にしたいという思ひがあつたんですね。だからとってつけではないと言ひたい。食に取り組んでいる市町村もたくさんある。でもうちはこれが本当の可能性だと。そんな思ひで取り組まなくちゃいけないんだなと。教育の分野は勉強していなかつたけれども、時代の流れとはいえ、保護者も学力に力を入れてあるというのは事実であろうと感じます。</p>
大雄教育長	<p>学力はまさしく子どもたちの未来や夢を拓く。学校教育部門で一番大事なのは確かな学力をつけさせること。これは学校教育で最も大切なことだと思ひます。学力がつけば子どもたちは自信がつく。いろいろな物事に意欲的、積極的に取り組めます。その中で諸々のことを学んで人間的に成長するんです。だからベースは確かな学力を学校教育の中できちっとつけさせる。これは大事だと思ひます。だから今回教育支援大綱の一番目に学力を挙げられることは大賛成です。</p>



田頭町長	<p>いろいろ考えますけど、人間は考える葦ですから、葦によってここまで社会を築いてきているわけですから。やっぱり学問をするところと、さらに体も丈夫でないと学問も出来ないよという話になるし、そういった子どもたちを育てることで、子どもたちの将来が少しでも拓けていくとか深まっていくとか。</p>
藤田委員	<p>この最初の「地域で活躍するもよし、世界で羽ばたくもよし」というところに、子どもたちに学力をつけるというひとつの基盤に志を持たせる、どういう人になりたいとか、どういう仕事に就きたいとか、そういう志や夢を子どもたちに育ませるということは学力とともに必要なことかなと思います。このおかげさまを育む郷土愛の中の、おかげさまでというところが筑前町には残っているし、郷土を愛する、そのことが筑前町を好きになる、大人になっても筑前町が好きだというような子どもたちになっていけばいいなと思って。地域ボランティアとか豊かな心を育成するということは、学力とともに大事なことだなと思います。</p>
砥上委員	<p>私が最初考えていたのは、町の後期基本計画がどういうことになっているのかなということが気になったんですけども、これを教育支援大綱と比べると統一性があるんですね。これがバラバラだとだめ。だからこう統一感があるこの形が一番いいんじゃないかなと思う。それと学力というのはみんなが一番になることはできないわけで。確かな学力というのは基礎学力ですから、そこから飛躍していく人もあるし伸び悩む人もいるけれども、それはそれでいいと思う。基礎学力をつけてやるということは親の願いでもあるし福岡県教育委員会の大きな目標でもあるし、基礎学力ははずせないと思います。</p>
柿原委員長	<p>後期基本計画、この中に箇条書きで追加するのが分かりやすいのでは。この後期基本計画のシンボルテーマを中心に考えると分かりやすいなど。全面に出して箇条書きにして重点目標みたいにして入れていくとどうかなと。</p>
田頭町長	<p>私も考えたんですね。子どもが輝くまちづくりというジャンルを持っている。その中に1番と3番を入れていくと。そうすると大きくなってしまふ。</p>
柿原委員長	<p>大綱の中にシンボルテーマの3つを挙げてもらって、その下に重点目標を箇条書き入れていくような。そうすると分かりやすいなど。</p>
田頭町長	<p>これは後期基本計画で今もいきているわけで、これを頭に教育大綱に持ってくる…これはマスタープランの一部分なわけです。マスタープランの中から絞り込んだものなんです。これと同じようにまちづくり全般の中で特徴的なものを3つあげようということで3つあげたんです。ただこれを子どもとどう結び付けるか。この中には学力とかが出てこないわけですね。</p>
柿原委員長	<p>これは分かりやすいですけどね。</p>
砥上委員	<p>しかし実際例えば役場で言えば都市計画課とか建設課とかいろいろな部署があつて…</p>

田頭町長	<p>都市計画課とかは入ってないんですね。教育大綱みたいに絞り込んだものを出せということで出したわけです。この3つは、町で考えたオリジナルです。このシンボルマークと大綱案の考え方は同じですから、整合性はもちろんあるとは思いますが。作り方ですけどね。ただ本当に筑前町が教育を支援することはどういうことか、何をするのかということになってくる。このシンボルマークから先を考えたところです。マスタープランが一番大きくて、やっぱり抽象的な表現になってしまう。そうなるに分からなくなってしまう。これはこれでマスタープランの中で浮いている、それはそれで個性でいいと思う。ここに挙げているおかげさまは同じおかげさまですけど、防災や福祉にも波及したおかげさまで広いんです。それと私がいつも思うんですけど、めくばーやコスモスプラザに行くと、学生たちがしっかり勉強していますね。私はあの状況を見ていて何かやれることはないかと思って、せめて照明くらい明るくしようと、机くらい並べてあげようと。その応援くらいできるよという…そうなるようにしっかり勉強している子どもたちを応援したいなということの一環で、町もしっかり応援しているということ言えばいいなと。予算についても思いが少し反映できたらなという、そういったことが町長が入ったことのひとつの意義でもあるのかなと。これから細かいことは教育委員会が施策を打ち出されるから。うちの方で予算をつけるかどうかということになると思いますが。</p>
高委員	<p>こういった方向性を出していただけることで、町の体制ももちろんですが、町民の方も意識をあげてほしい、関心を持ってほしいと思います。町がしているから町に任せておけばいいだろうではなくて、やっぱり地域住民として、地域のおじちゃんおばちゃんとして出来ることはとか、そういうところにつながってくるといいなと思いますね。</p>
田頭町長	<p>本当に教育に対する環境は自治体によって違うんですよ。私はこれがようやく町長になって分かった。力を入れているところと入れてないところと違う。教育主事の関係とか。</p>
大雄教育長	<p>全国的に町に2人任用しているのは珍しいですね。</p>
田頭町長	<p>ただ予算を絞りやすいのも教育なんですね。やっぱり今他市町村から人を呼び込むとなると、何を選ぶかという教育関係ですよ。重要な選択肢のひとつです。そういった意味においては筑前町を選んでもらえるようなことにもなりうるし、今住んでいる人たちが住みよい社会を作っていこうという方針です。これは私だけが言っているのではなくて、歴代の首長なり議会なり教育委員がしてありますけれども、筑前町は教育に熱心ですもんね。部活にも熱心でしたもんね。交流で来た職員からも、「ジャージで通学するのは筑前町の個性ですよ」と言われた。要するにそこまで部活に力を入れてある。それはいいことでもあるし、先生たちの負担にもなるし。だからもっともこの場で議論をさせてもらって、部活も大事だけれど先生たちの負担も軽減する方法なりをこの会議で協議することも可能なのかなと。</p>

	<p>それで、今日こういった風にやることについては、総花的なマスタープランを丸写ししてくるような大綱ではなくて、絞り込んだ大綱のスタイルでいいのかということのひとつずつ決めさせていただきたい。内容についてはまだ議論が必要ですし、私も思いを出すと言いながらも表現が適切かどうかは分からないし、整理をしていかなくちゃいけない。これを出す際にはバランスもありますもんね。最終的には文章バランス、重要度のバランスなど事務局の方で少し整理をしてほしいなと思います。</p>
高委員	<p>町長案の6番にある筑前町教育振興計画の推進というのはいらないんじゃないかなと思います。6番目だけ、具体的なことは書けないのでは。</p>
田頭町長	<p>6番目は前提ですからね。</p>
大雄教育長	<p>筑前っ子というフレーズは非常にいいと思いますね。</p>
田頭町長	<p>それではこのような形で進めていくということで。6番ははずすということではい겠습니까。この大綱は議決事項ではないのでしょうか。</p>
砥上委員	<p>他市町村は議決事項ではないけれども、議会で報告しているところもあります。あるいはパブリックコメントなどもどうするのか。最終的に年度末までに決定して出してもいいいんではしょうが。</p>
田頭町長	<p>教育関係者が集まる場所で大綱の宣言を行うことも必要かもしれない。そういった場で一回は作りましと公表するのも。それと議会にもきちっと報告したいと思う。広報なんかでは当然出していくでしょうが、これを知ってもらうためにPTAとか関係者が集まる場所で公表するのもいいかもしれない。</p>
大雄教育長	<p>教育施策説明会は先生方と保護者も集まるため、その時に町長が定めたと。</p>
砥上委員	<p>今まで施策は教育委員だけで作っていたけれども、専門家ばかりの目線だけで、結局町民目線がなくなってしまう。町長あくまでも町民から選任されたということで、町民目線での意見をあげてもらっているわけですから。</p>
柿原委員長	<p>大きな大綱の中で施策も入ってくるわけだから…</p>
大雄教育長	<p>大綱と筑前町の教育施策に齟齬があるわけではない。総合計画に基づいて施策も作成している。</p>
柿原委員長	<p>説明会の時に大綱の話をしてしまうと、ごちゃごちゃになって分からなくなってしまうのでは。</p>
大雄教育長	<p>であれば1月に学力向上研修会があるので、その時でもいいのでは。</p>
田頭町長	<p>現実的に学力向上研修会というひとつの題目だけで研修会をやっているわけですから、学力に力を入れているというのは間違いない。しかしやっぱり町長もしっかり考えているということを伝えていかないといけないですよ。ね。</p> <p>ではそのように進めるということで、次回はこの大綱案をもう少し整理し</p>

	<p>て、ある程度形を作って事務局で整理した上で提示をしていただきたい。私は名古屋市が素晴らしいと思うのは、ひとつひとつにきちんと説明をしてある。これが条例や規則を作るときに非常に重要です。</p>
高委員	<p>やはり教育支援大綱と教育振興計画や教育施策の位置関係というものを町民のみなさんに分かりやすいような図式的なものがあった方がいいのではないかなど。体系みたいなものをですね。</p>
田頭町長	<p>大綱が一番上になると思うから…まずマスタープランがあって基本計画というものがあってその中のひとつがこのシンボルテーマ、その中のひとつに教育振興計画がこの子どもが輝くまちづくりの中に入っていると。その中でわかりやすく教育について大綱を作ったと。そして教育委員会が施策を作っていくと。</p> <p>じゃあそのようなことで次回も進めていきたいと思います。それと第1回の会議でも言いましたが、教育談義、大きなところの議論は意見を反映させていきたいと思っています。積極的に意見を述べていただいて、勉強させていただきたいと思います。そしたら（1）の教育大綱の策定方針案については議論をいただきましたので、修正を兼ねてまた次回提示させていただくということによろしいでしょうか。</p>
委員全員	<p>はい。</p>
	<p>この後、町長と教育委員の意見交換。次回スケジュールを決定。</p>
	<p>（閉会 15：35 ）</p>